医療法人社団　総合会　武蔵野中央病院

平成２２年度創立記念日（創立者誕生日）

式典

日時　　平成２２年１０月８日（金）　　午前　９：４５

会場　　正面玄関ロビー創立者胸像前

研修発表会

日時　　平成２２年１０月８日（金）　　午後　１３：３０～１７：００

会場　　新館２階　会議室、食堂

発　表　集

開会の挨拶　　理事長　　牧野　アツ　　午後　１３：３０

1.「療養病棟でアロママッサージを試みて」　　１３：４０

１Ｂ病棟　　○白石　達也
山野　千春

病棟スタッフ１５名と患者１名にアロママッサージ施行。アロマ２種（ラベンダー、ティートリー）をホホバオイルに混ぜ濃度１％とし、両下肢膝関節下～足関節及び足背に左右５分ずつ。スタッフには職業性ストレス簡易調査票でアンケート。疲労感と不安感に改善傾向、聞き取りで半数以上から好評。患者は施行後の夜は不眠解消し「気持がええ、次もやってほしい」と。長期入院者の多い療養病棟でアロマはストレス軽減に有効と思われる。

2.「長期入院患者の退院支援　　１３：５４
～退院は無理と思われていた１事例を通して～」

３Ａ病棟　　○佐藤　祥子
大森　秀夫

Ａさん（60 代女性・統合失調症）は合併症治療による２回の転院を含め、当院に 18 年間入院しており、退院は無理と思われていた。Ａさんの強い希望を尊重し、退院が決定したが、服薬・金銭・食事・腎瘻管理など、問題は多かった。病棟スタッフや作業療法士による生活技能評価・精神保健福祉士によるアパート探し・外泊中の訪問看護など関係者の協力により、単身で近隣にアパートを借り退院することができた。本症例を通し、どのような患者にも社会復帰の可能性があることに気付かされた。

3.「ＣＶカテーテル挿入者の感染予防対策」　　１４：０８

１Ａ病棟　　○松原　正枝
谷口　浩二

ＣＶカテーテルの感染予防として、①手洗い清潔操作の徹底と見直しを実施。手洗い後はエタプラスゲルを使用し、点滴ワゴンを設置。ワンショットプラスからエタコットに変更。医師は感染防止キットを使用することを統一した。②感染チェック表の作成。③入浴後の処置の改善として刺入部周囲の皮膚をアルコール綿で拭き、刺入部のイソジン消毒を徹底した。又、逆流防止コネクターと閉鎖式輸液ルートも使用し、感染減少につながった。

4.「精神科開放病棟における移動状況と活動範囲についての調査」　　１４：２２

リハビリテーション科　PT　　○ 南部　誠
細井　匠

当院の精神科開放病棟では外出時に見守りなどの介助を要する患者は約３割で、そのうち介助を要する理由は８割以上が身体面での問題であった。患者に対して活動範囲と身体機能について調査したところ、自立歩行者であっても、地域高齢者と比較すると活動範囲と身体機能が低下していた。運動器不安定症に該当している方も多いことから、今後は要介助者を増加させないために早期からの理学療法介入が必要である。

休　憩（写真撮影　発表者・メンバー全員集合）　　１４：３６～１４：５５

５．「パーソン・センタード・ケアを目指して」PartⅡ　　１４：５５
～基本確認から個別ケアの充実へ～

２病棟　　○折原　文子
古川　洋子　　竹中　善美　　眞貝　真奈美

認知症患者が増加。より個別的な看護介護を目指し昨年パーソン・センタード・ケアを導入。今年は①職員アンケートで見直しつつ、再学習で基本確認。②患者役の体験学習（トロミ茶試食、移乗、オムツ着用、拘束等）、③ユニット毎の振り返りをほぼ毎日実施。問題のあるケアを目にした時は指摘し合える雰囲気に。症状安定した患者も出てきた。相手の立場で考え、先入観・偏見をもたず尊厳ある人として笑顔で対応する職場環境が大切。

６．「睡眠薬の服用に関するアンケート調査から」　　１５：０９

薬　局　　○林　やすみ

精神科外来に通院している患者は、睡眠薬を服用しているケースが多い。服用時の注意事項が守られているかを確認し、服薬指導を行うための参考にするためアンケート調査実施。結果、６年以上の長期服用者４割。入床から入眠まで１時間以内が７割強。睡眠時間は平均 7.2 時間。睡眠薬服用に関し、耐性、依存、副作用など、不安を持っている患者に対し、サポート必要。睡眠についてのチェック表やパンフレットを作成し、活用法を探る。

７．「暴力行為・・・その時私達は　～フローシートを作成して～」　　１５：２３

３Ｂ病棟　　○井上　正嗣
川畑　昭宏　　３Ｂスタッフ一同

包括的暴力防止プログラム（ＣＶＰＰＰ：下里 誠二ら）の中からリスクアセスメントに焦点を当て、独自のフローシートを作成。刺激を防ぐ為の個室使用、ストレス軽減の散歩・ＯＴ活動、介護時安心感を持って貰う為笑顔で複数スタッフ対応、行動予測等。暴力行為は月３０数件が１０件前後に。情報共有・意識化とコミュニケーション技術、適切な距離、精神状態の把握、事故を想定し段階的に介入した事が有効であった。

８．「WRAP～自分取扱説明書」　　１５：３７

地域生活支援課　　○中村　猛
有賀　達郎

ＷＲＡＰは「リカバリー概念」を基盤とし、精神疾患をもつ当事者によって作られた健康自己管理法。毎日を元気で過ごすための、気分がすぐれない時に元気になるための、調子が悪くて他者に助けをもとめるための、対処法を仲間とともに作っていく。当院でも H21 年 10 月より初めて実施。アンケートを通し①生活に密接したすぐに使える有効な道具②当事者同士のつながりの大切さを実感。当院では『自分取扱説明書』と呼び、今後も継続。

授　賞　式　～院内ニュース名「ここから（新井　美子」と　　１５：５１
コラム名「総合力（萱嶋　秩枝）」～

シンポジウムおよび講評　　院長　　牧野　英一郎　１６：００～１７：００
～発表者・関係者は全員在席下さい～

祝賀会・パーティー　於　リハビリ棟２階ＯＴ室　　１７：３０

今後のスケジュール

全員アンケート　常勤職員全員と甲表パート者は　１０月２３日（土）までに所属長へ。

発表者「資料」(原稿Ｂ)と「研修発表集」(原稿Ｄ)と「要旨」(原稿Ｅ)は院長の承認を得て、１０月３０日（土）までに経理へ。

評価委員　評価用紙（１人あたり１０枚）を、１０月２３日（土）までに細井副主任へ。

運営委員　マニュアル原稿を１０月１６日（土）までに細井副主任へ。

討論会　　１１月の研修の日に同じ発表を致します。

「研修発表集」と「ここから・研修発表会特集号」を作成。

研修発表会運営委員会
〔総監督〕細井　補佐：　岡部
〔総合司会〕名古屋
〔司会〕岡部、市川
〔設営・会場〕式典運営：篠原・西田・野田・千葉・栃沢
会場運営：研修委員・リハビリテーション科・その他
〔マイク〕森・小椋・菅原
〔ベル〕岸本・宮平
〔写真〕外部に依頼
〔ビデオ〕飯塚
〔看板〕杉山・千葉
〔電話受付〕経理
〔プログラム･発表集〕経理